

萬華之塔、三和村、真壁千人塚

萬華之塔

この碑がある真壁村(現在の糸満市)は、沖縄戦最後の激戦地となった。この地域はどこも似たような状況であり、各部落ごとに慰霊碑が建っている。真壁部落の塔がこの萬華之塔である。戦後、付近に散乱していた遺骨を、日本兵、米兵、地域住民の差別無く集め、1万9000人余の遺骨が納められている。この萬華之塔の隣に並んで建っているのが砲兵山吹之塔である。野戦重砲第一連隊の勇戦敢闘を讃える文章が並んでいる。住民が建てた素朴な碑と比較して対照的である



三和村(みわそん)

ここ真壁村と摩文仁村、喜屋武村(いずれも当時)は人口の4割が戦死し、単独では村を維持する事が出来なくなり三村が合併し、三和村を作った。この事実からも、いかにこの地が激戦地であったかがしのばれる。後に三和村は糸満市と合併した。今も真壁にある郵便局に三和の名が残っている。

真壁千人塚

萬華之塔から小道を進んだ所にある塚。多くの避難民や敗残兵が入っていた。軍民雑居の状態だがある者が住民や負傷兵を安全な場所から危険な入り口付近へ追い出した。米軍の攻撃を受けたとき入り口にいた負傷兵は全滅した。



【千人塚での証言】

真壁では千人塚というのがあってそこに入りました。民間人はいなくて、兵隊だけがたくさん入っていました。そしたら、アメリカに、迫撃砲をうちこまれて、塚のワクがこわされて入り口がふさがれ、出入りができなくなりましたが、アメリカのためにここで友達が一人焼き殺されて死にました。それで、私たちは奥にいて、二十日間ぐらいそこで生活していました。塚の奥は水もありました。負傷兵は入り口において全滅しましたが、友軍は奥にいました。

それから千人塚からちょっとはなれた塚に移りましたが、そこは民間も友軍もごっちゃになっていました。

大きくて何百人も入れるので、ずいぶん大勢の人がいました。友軍よりも民間の人がずっと多かったんですがそこで、大変なことを見ました。

四つか五つになっていたと思いますが、男の子がおりました。その子は、親がいない、と泣いていました。子供は入り口の方にいましたが、塚の上には穴が空いていました。そしたら、友軍の兵隊が「この子の泣き声が敵に聞こえる、泣き声が聞こえたら私たちも大変である。この子をどうするか、親はいないか。」と言いました。兵隊の声にだれも返事をする人はいません。そこで兵隊達の中にはいつて殺ったんです。少し明るかったんですね。上に穴が空いていたから。連れて行って、三角布で首を絞めたんです。民間の人はそれを見て、みんな泣いていました。首を絞めるのは現に見ましたが、怖かったもんですから、最後まで見ることは出来ませんでした。